麦作情報No.2（R9年産）

令和８年10月23日
滋賀県東近江農業農村振興事務所農産普及課
（東近江農業普及指導センター）

適切な播種で「びわほなみ」の安定生産を目指しましょう！

1　“適期”　に播種しましょう！

「びわほなみ」は秋播性程度が低く、気温が高いと生育が早まり、**黒節病**や**縞萎縮病**などの病害が発生しやすくなります。また、出穂が早まると春先の**凍霜害**による収量や品質の低下につながります。

長期予報では平年より気温が高く推移することが見込まれます。早播きせず、適期に播種できるよう、ほ場準備および播種準備を行いましょう。

「びわほなみ」播種適期　11月10日 ～ 20日

2　適切な播種作業は収量確保と雑草対策に繋がります！

収量確保と雑草対策には苗立ち数の確保が重要です。今一度、下記のポイントを再確認し、播種作業を実施しましょう。

○播種量：８～１０kg/10a

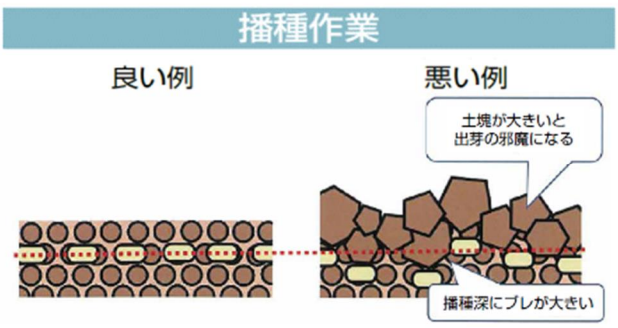
・播種が遅れた場合は、苗立ち数を確保するため播種量を増やしましょう。
・１０日遅れるごとに１kg/10a追加が目安です。

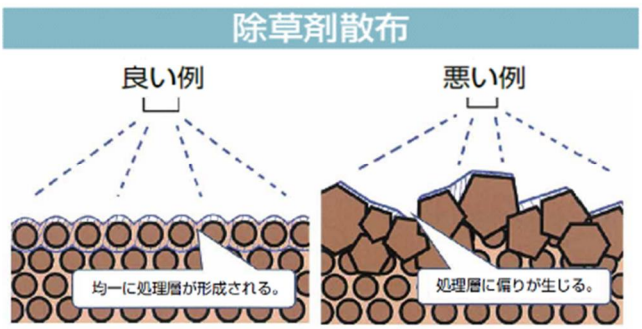
○播種深度：２～３cm

・深すぎると、苗立ち不足や生育期の分げつが抑制され減収します。

○条間：２０～２５cm

・播種時の条間を出来るだけ狭くして、麦でほ場を覆うことで、雑草対策になります。
・表層が細かく均一になるよう耕起することで発芽率向上や除草剤効果アップにつながります。





※降雨前後の播種は発芽不良の原因となるため、天候にも気を付けながら、ほ場条件の良いときに播種しましょう！

3　耕起前に雑草があれば茎葉処理剤を散布しましょう！

近年、収穫期に雑草が繁茂したほ場（写真）が多数見られます。雑草が繁茂すると収量・品質の低下に繋がります。

耕起前に雑草が確認される場合は、耕起前の「非選択性の茎葉処理剤」の散布により、雑草の発生が抑制できます。

播種後は「土壌処理剤」を散布し、新たな雑草の発生を抑えましょう。

「土壌処理剤」だけでは、生育後半の雑草が抑制できない場合があります。2～3月頃の「茎葉処理剤」との体系処理が効果的です。



ハルタデが繁茂したほ場

耕起前の茎葉処理剤の散布 → 耕起・播種 → 土壌処理剤の散布 → 生育後半の茎葉処理

4　再度、排水対策ができているか確認しましょう！

麦の出芽向上や、土壌処理剤、肥料の効果を高めるためには、排水対策が重要です。

排水溝が水尻までつながっていないなど、排水対策が不十分なほ場で生育初期に降雨があると、ほ場に水が滞水して出芽不良や苗立ち不良が生じます。

播種前には、排水溝をしっかりと点検し、排水溝が崩れている場合は溝さらえを行い、ほ場に水が滞水しないよう排水口までしっかりとつなげましょう。



つなぎ目はしっかりつなぐ！